

行き詰まり症候群

アンディ美湖

8：権威分与的リーダーシップ

(訳：鈴木敦子)

弱い者から力を引き出す

Copyright 2001 Andy Meeko

神はしばしば最も小さい器を用いて最も大きなことをなさる方です。思いもかけないときに、か弱く小さいものを通して私たちのかたくなな心と精神とに触れて下さいます。この方法は私たちも良く知っている通りです。どんな方法も可能でありながら、宇宙の主権者が粗末なまぶねの中に来られたのです。ですから私たちはまわりを見渡す時、神様は思いもよらない人々を通して大いなることをなさる、と期待しても良いのではないのでしょうか。私たちはこのような期待感を育てているのでしょうか。

世界で最も総合的に教会について研究している Christian Schwarz of Natural Church Development の調査によると(www.cundp.de 又は、日本での情報は 石原良人氏 office@icbc.net) 世界中の教会の弱点は、他の者の力を引き出さないリーダーシップにある ということです。幸運にもこれは最も容易で、解決がしやすいものと考えられています。それは、教会全体ではなく、一個人によって解決できるからです。

なぜこのようなことが問題となっているのでしょうか。それは自分の重要性を過大評価するリーダーのプライドでしょうか、又はコントロールを失うことに対する恐れ、又は結果がでなかったらという不安や、自分より他の人の方がうまくやることへの恐れかもしれません。またあるいは、神の御業を行なうには貧しすぎる器であるとか、哀れな羊に過ぎないといった間違った教えに問題があるのでしょうか。

おそらく、権威と力を分け与えることが神の方法そのものであることを私たちが忘れてしまったのかも知れません。乱暴と思えるほど、神は、全く不適格で信頼の置けない被造物である人間に権威と力をお与えになります。このような神の限りない自由さは予測のつかない魅力あるところです。

驚くべきことに神は私を永遠の計画の中にさえも含んでおられます。

しかしある時、神の力をいただいた私たちは、それを独占してしまうことがあります。自分たちが特別に力を与えられたことばかりに目をむけ、いかに、取るに足らないものであるかを忘れてしまうのです。神学を歪めて、伝道や祭司の働きは信者全員のものでなく、限られたものだけに与えられていると考えてしまいます。聖職者たちだけが目立ったことをするといった考え方を、私たちはどこで身につけてしまったのでしょうか。このような慢心にあふれた考え方は、私たちの神学をどう説明するのでしょうか。私たちは人に力を与え、人に任せ、無謀な危険を冒す神に仕えているのでしょうかそれとも何か他のものに仕えているので

しょうか。

ある時点において私たちは、必要ははるかに大きいものであることに気づくべきです。私たちは常に冷静でいるには余りにも弱いものでありながらも、ある程度のインパクトは与えることができるのです。コントロールを失うとき、より大きなことが起こり得ます。遠くて超えることの出来ない地平線が、手の届くところにあり、陰鬱とした内なる葛藤も、突然新しい可能性に変わりうるのです。

Celia Hahn は The Alban Institutes の研究の中で、次のように述べています。『コントロールを失った瞬間とは命を生み出す可能性が生まれるときである。行き詰った状態から抜け出すための新しい洞察、方向性、力が生まれ出てくることもあるのだ。』

私たちを支援してくれているあるオレゴンの教会、イーストヒルフォースクエア教会は自由を養う教会です。方向性はありますが、何が起こるかわかりません。オレゴン州は伝道の難しいところだと言われており、米国の中でも教会に加わっている人口の最も少ない地域です。しかし何か素晴らしいことが起こっているのです。

昨年、Poul Duris という青年牧師が驚くような統計を目にしました。ある調査によると、人が5歳から13歳の間にキリストを信じるようになる確率は40%ですが、14歳から18歳の間ではたった4%に下がってしまい、19歳以上では6%にしかすぎないというのです。このことを知ってからまもなく Poul はあるヴィジョンを抱くようになりました。それは、網を海に投げ込むのですが、その網はロープで出来ているのではなく、子供たちで出来ています。その子供たちは深みに沈んでいる子供たちの手をつかんでいるのでした。そしてあるモットーが浮かびました。“2000年に1000人の子供たちを！”そして1000冊のフォローアップ用の本を注文しました。

その本が届いたとき、子供たちは本の入った箱を取り囲み、網で箱を覆って祈りました。

『イエス様、この箱を空っぽにしてください。今年1000人の子供を救ってください。私たちをあなたのための網にして下さい。アーメン』そしてこの子供たちはどうやって信仰を分かち合い、友達を救いに導くか訓練を受けました。Poul は何が起こるか、待ちました。

まもなく校庭での回心物語が、毎週次々と聞かれるようになりました。子供たちが目に涙を浮かべて、町中のともだちをキリストに導いた証を話し出しました。ある男の子は Poul を、彼の宣教の地である校庭に連れて行って言いました。『友達がイエス様のことを知らないって言ったんだ。でも、お母さんとお父さんがクリスチャンになることについて話をしていたんだって。だから君はどうなんだって聞いたら、“うん、僕もクリスチャンになりたい”って言ったんだよ。だからその子とお祈りしたの。』

二日後ほかの友達とも同じ話をしたんだ。それで三人になった。その後同じ場所でもう二人の友達をイエス様に導いたんだ。それからその子の兄弟たちがイエス様のことを知りたいて言ったから、教えてあげたの。これで8人がクリスチャンになったことになるよ。この話の伝道者は8歳の男の子です。

昨年12月6日にはキリストを信じた子達は1000人に達し、年末までには1039人になりました。小さな子供たちが自分の世界を変えているのです。彼等よりもふさわしい人が他にいるでしょうか。

しかし神はここで留まっておられません。

14年前、私は六大学で伝道するために日本に来ました。将来の会長や総理大臣を導くことを夢見て。

御徒町キリスト教会で私はあるひとりの男の子と関わるように言われました。その子には輝かしい未来と呼べるものはありませんでした。しょうたろう君は目が不自由であったばかりでなく、精神的にも障害がありました。おそらく精神的には5歳にも達してはいなかったでしょう。世界を変える見込みのある人とは、縁遠いものと思われました。しかし今振り返ってみると自分の野心は恥ずべきものであったことを知り、そして、しょうたろう君をただ賞賛するのです。

毎週日曜日、私達は教会のある上野のオフィスビルのすすだらけになった屋上へ行きました。私が聖書の話をし、歌をうたいました。彼は『主はすばらしい』の歌が好きでした。私はしょうたろう君に真理を教え、彼は私に愛を教えてくださいました。冷たく灰色の東京で彼は私を熱心に愛してくれました。愛ほど大きいものはありません。

去年の夏東京に行った時にしょうたろう君の容態が悪いことを聞き、成田に行く前に、病院にいる彼を見舞いました。私の友はアウシュビッツの犠牲者のように弱り果て、チューブがぶら提げられていました。細い体に関節だけが出っ張って見えました。彼の陽気さは消え、ただ何とか持ちこたえている状態でした。

お土産に持っていった彼の好きなゼリーも、もう食べることは出来ないと、お母さんが話してくれました。その上彼はもう座ることも立つことも歩くことも出来ませんでした。笑ったり冗談を言ったりしていた口も動かすことができませんでした。私の聾の娘が持っていない一つのことだけ持っていて、聞くことはできましたが、他の全ては失っていました。痛んだ肉体の中で、暗やみの牢獄の中に固く縛り付けられている“5歳”の男の子が、そこに横たわっているのです。彼の両親の目を私は忘れることができません。愛するわが子がゆっくりと衰えていくのを見ていく、言いようもない苦しみ。

私は彼に話しかけ、彼のために祈りましたが、石の壁に向かっているようでした。しかしそのとき、彼のお父さんが、彼を起こしてベッドの端に座らせ、私と並んで座れるようにしてくれました。指が反り返って硬直した彼の手を取って、前によくうたった歌をうたいました。“主はすばらしい、主はすばらしい、主はすばらしい、わたしの主” 私はもう少しでこえられなくなるところでしたが、何とか持ちこたえ、ふさわしいとは思えないその歌を最後までうたいました。その後ご両親は私に別れの挨拶をするために彼を車椅子に乗せて玄関まで来てくれました。私が行こうとすると、しょうたろう君は、何とか手を上げてさようならを言うてくれました。ふり向いて歩き始めた時、私はついに泣いてしまいました。駅まで涙が止まりませんでした。

しょうたろう君は先週亡くなりました。彼はようやく自由になりましたが、私は彼がいないことをとても寂しく思います..

私はヘンリー ナウエンの話に似たことを経験したと、気づきました。彼は『わずかしか、あるいは全く話せず、この社会では、ほとんど必要とされていないと思われる』ある人によって、いやされました。

この話の中の伝道者とは一体誰だったのでしょうか。それは、不面目ですが明らかです。傷ついたひとりの少年が、高い訓練と教育を受けた、そして誤った動機を持っていた宣教師を教えたのです。私はこの弱々しい友を通して神の心と出会えたことを深く感謝しています。

神は最も弱く小さいものを通して、最も大きく働かれます。最もふさわしいと思えないところで神を見出しましょう。その力を、戸を開けて招き入れようではありませんか。